

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

＜先週の説教から＞

『詩編 40 - 御覧ください、私は来ています』

武田真治牧師

詩編 40:1-18 ヘブライ手紙 10:1-10

毎月末に詩編を読み進めています。この詩編 40 篇は、様々な人生経験を経た信仰者が神様に祈り求めている“祈り”だと言います。最初は「主にのみ、わたしは望みを置いていた。主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった。わたしの口に新しい歌を授けてくださった。」と、とても信仰深い、感謝と讃美の言葉が語られています。ただ、よく見ると、これらの言葉は「～いた」と「～くださった」という過去形であることが分かるのです。つまり、これらは過去の救いを指しているのです。では、今はどうなのかと言えば、13節以下で「悪はわたしにからみつき、数えきれません。わたしは心挫けています。」と深刻な状況を述べているのです。

おそらく、かつて神様に助け出された、神様との良き出会いをした経験があったのでしょう。そのことで神様への信仰を強く、深くしたことがあったのでしょう。でも、長い信仰生活の間には、いろいろなことが起こって来るものです。その確信や信仰を揺るがすような出来事も持ち上がってきます。私たちも同感するところがあるのではないのでしょうか。

しかも、この祈り人が感じている“辛さ”は、今の厳しい課題や状況が「わたしは自分の罪に捕らえられ、何も見えなくなりました。」と、自分の罪＝愚かさや弱さが原因で生じた状況なのでした。もともと、自分に原因があって生じた問題なのです。何かのスキャンダルを起こしてしまったということでしょうか？16節で「わたしに向かってはやし立てる（＝嘲笑う）者」がいるとも言っています。

このような状況に陥ってしまったなら、普通はもうだめだと絶望するか、戦うことを諦めてしまうかでしょう。少なくとも、神様の顔を避け、信仰や教会の交わりから離れてしまう方向に行きます。しかしこの祈り人はそうしないのです。むしろ逆に「そこでわたしは申します。御覧ください、わたしは来ております。わたしの神よ、御旨を行うことをわたし

は望み、あなたの教を胸に刻み、大いなる集会で決して唇を閉じません。」と語っています。これは「集会＝礼拝」に「わたしは来ております」と、だから今、私を「御覧ください」と求めている言葉で、なんとしても神様に救い出してもらわなければ！赦し導いてもらわなければ！と必死に叫んでいる姿なのです。しかも「決して唇を閉じない」という在り方を、「主よ、あなたはそれをご存じです」とまで言っています。これはもう神様に、自分はこれしかできないのだから“見て聞いてください”と“食い下がっている”言葉なのです。この信仰者の姿にこそ学ぶべきではないでしょうか？

私たちはうまくいかない（それが自分の罪から来ているのに）すぐ、もうだめだといやになって逃げ出すことばかり考えます。そうではなく、神様にしか“救いはない”と肝に銘じ、食い下がるしかない者ではないのでしょうか？

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 3月6日(水) 20:00
II. 3月7日(木) 10:30

聖書：ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題：世界祈禱日 3/1 を覚えて
担当者：(水) 岩井 (木) 杉村
祈りに覚える人：丸茂さん 水澤さん

【教勢報告】

主日礼拝 男16 女50 計66
祈禱会 I. 男7 女3 計10 II. 男1 女9 計10
日曜学校 幼稚科7 小中科6 計13
ハンナの会(2月27日(火)) 男0 女5 計5

【次週主日礼拝】 3月10日(日)

聖書：ゼカリヤ書 2:14~17
ルカ福音書 1:26~33

説教：「ルカ⑤一恵まれた女性」武田 真治牧師
讃美歌：296(1)、32、聖歌隊438、311、
479、92(1)

【次週当番表】

司式：羽倉長老 奏楽：勝村 礼拝：齋藤長老
献金：岩井 岩井 受付：鈴木 橋本
会堂準備：飯島 岡本 金刺 中村
森本

看板：岩佐 週報：金刺 お花：茂木

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後：・壮年/会婦人/ダビデ 各会
・お茶の会 ・牧師と語る会

2024年 3月 3日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>